

## 橋本市民病院を受診された患者さまへ

当院では、下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に研究等への参加をお願いすることがありますので、ご協力よろしくお願ひします。

研究課題名	妊娠16週以降の流早産既往妊婦に対する合成プロゲステロン製剤使用
研究担当者	橋本市民病院 産婦人科 古川 健一
目的・概要	<p>子宮頸管無力症や子宮収縮を伴う切迫流産・早産の悪化による妊娠37週未満の流産・早産の既往がある場合、次の妊娠も早産になる可能性が高くなることが知られている。</p> <p>このような早産経験のある妊婦に合成プロゲステロン製剤250mgを妊娠16週から36週にかけて週に1度投与することにより早産になるリスクを3割減少させることが報告されている(N Eng J Med 2003;348:2379-2385 PMID:12802023)。</p> <p>切迫流産・早産の悪化による妊娠37週未満の流産・早産の既往があったり、切迫流産治療のために長期入院を要した既往のある妊婦に合成プロゲステロン製剤250mgを妊娠16週から36週にかけて週に1度筋肉注射を行う。</p> <p>治療期間中に切迫流産・早産の兆候が出現してきた場合は通常の切迫流産・早産を行う。</p>
研究対象 実施機関 実施場所等	子宮頸管無力症や子宮収縮を伴う切迫流産・早産の悪化による妊娠37週未満の流産・早産の既往があったり、切迫流産治療のために長期入院を要した既往のある橋本市民病院で妊娠管理を受けている妊婦を対象とする。
研究期間	2021年7月26日～
研究等における倫理的配慮、人権擁護及び個人情報の保護等	<p>治療の同意は、患者の自由意思で行われ、治療を受けなかった場合は、不利益を被ることはない。また、同意の撤回はいつでも行うことができる。同意撤回により不利益を被ることはない。</p> <p>治療の継続について患者の意思に影響を与える可能性がある判断される重要な有効性や安全性などに関する情報が得られたときは速やかに情報提供し治療の継続について判断してもらう。</p> <p>治療を受けた患者の個人情報は厳重に保護され、外部に出ることはない。学会や学術雑誌に発表する時は、個人や家族の情報は匿名化し、橋本市民病院事務局で厳重に保管する。</p>
備考	